2026年10月15日

新型車両「13000系」が「2026年度グッドデザイン賞」を受賞

「未来」をテーマにデザインを探求し、「選ばれる沿線」の創造へ

相鉄ホールディングス
相模鉄道

相鉄グループの相鉄ホールディングス㈱（本社・横浜市西区、社長・加藤 尊正）と相模鉄道㈱（本社・横浜市西区、社長・平野 雅之）は、10月15日（木）、2026年3月から運行を開始している新型車両「13000系」が2026年度グッドデザイン賞【主催・（公財)日本デザイン振興会】（以下、同賞）を受賞しました。相模鉄道の車両が同賞を受賞するのは、「9000系リニューアル」、「20000系（相鉄・東急直通線用車両）」、「12000系（相鉄・JR直通線用車両）」に続き4度目となります。

同賞は、デザインによって暮らしや社会をよりよくしていくことを目的に、1957年に創設された表彰制度です。人が何らかの理想や目的を果たすために築いたものごとをデザインととらえ、デザインの背景・プロセス、目的と達成した成果などのさまざまな観点で評価・顕彰するものです。同賞の特徴である、シンボルマークの「Gマーク」は、多くの方に親しまれています。

■今回受賞した内容

新型車両「13000系」

相鉄グループは、2017年の創立100周年および東京都心への直通運転開始を機に、駅・車両・制服などのデザインコンセプトを統一し、グループのブランド価値、認知度向上を図る「デザインブランドアッププロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトの第2フェーズとして製造したのが13000系です。同車両は、いままでのデザインコンセプト「安全×安心×エレガント」に「未来」を加え、車両前面の水を切り拓いて進む海の生き物のような流麗な造形が特徴です。前照灯の「未来を見つめる目」など、沿線の未来を築く一助になるデザインを目指した、相鉄線内専用の新型通勤車両です。

新型車両「13000系」

なお、相鉄本線 瀬谷駅付近で開催される２０２７年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）に相鉄グループが出展する「SOTETSU PARK（そうてつぱーく）」で、同車両の実車が展示されます。相鉄グループでは、今後もさまざまなアイデアや「未来」に向けたデザインを探求していき、「選ばれる沿線」の実現を目指してまいります。

概要は別紙のとおりです。

（別　　紙）

「2026年度 グッドデザイン賞」受賞の概要

1. 受賞日
   2026年10月15日（木）
2. 受賞会社・内容
   相鉄ホールディングス㈱・相模鉄道㈱
   新型車両「13000系」
3. 審査員からの評価
   ネイビーブルーの車体色で新しいイメージを打ち出した鉄道事業者が、それに満足せず、第二世代と位置づけてアップデートを図ったところに、挑戦の気概を感じる。風景の映り込みを綺麗にしたいという気持ちから、ボルトが露出する部分はカバーで隠し、ライトユニットは通勤車両としては珍しく側面まで回り込ませ、サイドカバーにつなげることで、有機的な雰囲気を出すことに成功している。このライトカバーに刻まれたロゴや、ライト内の錆色のアクセントなど、隠しアイテムを散りばめたところも楽しい。

※グットデザイン賞について
1957 年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みです。デザインを通じて、産業や生活文化を高める活動です。シンボルマークの「G マーク」とともに広く親しまれてきました。
https://www.g-mark.org/

GOOD DESIGN

新型車両「13000 系」の概要

1. 車両名称
   13000 系
2. 営業運転開始日
   2026 年 3 月 30 日（月）
3. 導入編成数・両数
   1 編成（8 両）
4. 車両製造会社
   ㈱総合車両製作所
5. 車両概要

前照灯

コンセプトエンブレム

【デザインの特徴】
（1）生成AIを活用した「未来」をイメージするデザイン
（2）入線時にホームから車両の横顔が美しく見える新設計を実施
（3）前照灯の両端部には、「Concept Emblem（コンセプトエンブレム）」を採用
（4）前照灯の内部には、線路の色であるさび色をイメージした配色を実施
（5）車両前面中央部に「YOKOHAMA NAVYBLUE」のマット色を施した「センターパネル」を新たに導入

【快適性など意識した車内装備】
車内は、相鉄・ＪＲ直通線用車両「12000系」に比べて先頭車の座席数を6席、1編成あたり12席を増やした他、グレー色を基調にした内装で統一。「12000系」、「20000系」車両と同様にガラス製の荷棚・仕切り・貫通扉の採用により、開放感のある室内としました。時間帯で色調が変化する調光調色式のLED照明を採用した他、全ての車両にベビーカー・車椅子用のフリースペースを設置。優先席及び一般席の一部には立ち座りが容易になる「ユニバーサルデザインシート※1」を採用し、多様なニーズにお応えします。
また、車内防犯カメラを設置して車内のセキュリティ向上を図る他、「ナノイーX※2」搭載の空気清浄機を各車両に1台搭載し、快適性の向上に努めています。

【電力使用量を最大39%抑制】

環境面では、12000系と同型のIGBTタイプのVVVFインバータ制御装置※3 を導入し消費電力の抑制に努めることにより、当社既存車両と比較して1両当たりの走行にかかる電力使用量を最大39%抑制できます。

※1 沿線にお住まいの方の意見を取り入れ、立ち座りを容易にするため座席の高さを上げ、座り心地を損なわない範囲で座面を小さくしたシート。

※2 ナノイーXは、パナソニック株式会社の登録商標です。

※3 VVVFインバータ制御装置は、架線から集電した直流電源を高い効率で交流電源に変換し、電車のモーターに伝えて加速や減速を滑らかに行う装置です。これにより、エネルギー効率が向上し、運行コストの削減や快適性が向上します。また、ブレーキ時には回生エネルギーを活用することも可能で、環境負荷の低減にも寄与しています。

朝夕で色調が変化する「調色調光式のLED照明」（左 昼間、右 夜間）

相鉄グループの GREEN×EXPO 2027 Village 出展について

相鉄グループは、2027 年 3 月 19 日（金）から開催される「２０２７年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）」の Kids Village（キッズビレッジ）にて、「SOTETSU PARK（そうてつぱーく）」を出展します。

SOTETSU PARK のコンセプトは「ともだちとすみか」。「ともだち」は、ひとをはじめ身近に暮らす生きもの、「すみか」は、生きものそれぞれに適した住処を指し、生物と自然が影響を及ぼし合いながらも調和して暮らすフィールドを表します。子どもたちが「ともだち」に出会い、「すみか」で遊びながら触れていくことで、身近な生きものや自然を知り、守るアクションにつなげていくことを目指します。

©Expo 2027

【参考】

車両デザインについて

〇デザイン過程

デザインコンセプトは「安全×安心×エレガント×未来」。

未来を見つめる顔をデザインするために、生成 AI も活用しています。はじめにスケッチを繰り返し、その中から原形となるイメージを 3D でモデリング。それらを生成 AI に学習させ何千というバリエーションを出力し、そこからセレクトしたものに更に手を加えていきました。アナログな作業でデザイン修正したり、再構築したり……。検証作業を繰り返し行うことで、純度の高いデザインを目指しました。

相鉄線沿線の皆さまはもちろん、ご利用になるお客さま、鉄道を愛する皆さまに愛される車両になることを一番に考えてデザインしました。未来へ向けて。

〇水野 学氏プロフィール

good design company 代表

1972 年生まれ。1998 年 good design company 設立。

ブランドや商品の企画、グラフィック、パッケージ、インテリア、宣伝広告、長期的なブランド戦略までをトータルに手掛ける。

2013 年より、相鉄グループ「デザインブランドアッププロジェクト」に携わり、全体のクリエイティブディレクターとして、車両・駅舎・制服のリニューアルから広告・PR・イベント企画まで幅広く担当。相鉄車両のデザインは、9000 系リニューアル車両(2016 年)、20000 系(2017 年)、12000 系(2018 年)のデザイン監修に次いで、今回で 4 車両目となる。

世界三大広告賞の「Cannes Lions」金賞、「The One Show」金賞、「Clio Awards」銀賞ほか、国内外で受賞歴多数。

〇吉田 真也氏プロフィール

SYD INC.代表

・1984 年生まれ

・2012 年

SHINYA YOSHIDA DESIGN 設立。元自動車のメカニックの経歴を活かし、日用品のプロダクトデザインからエンジニアリングまで、幅広いプロジェクトに参画。

・主な受賞歴

iF DESIGN 賞、GOOD DESIGN 賞、ELLE DECOR Young Japanese Design Talent、毎日デザイン賞 2019 ノミネートなど